

様式第1

ばい煙発生施設設置(使用、変更)届出書

年 月 日

古河市長

殿

住所
届出者
氏名

〔氏名又は名称及び住所並びに法人にあってはその代表者の氏名〕

大気汚染防止法第6条第1項(第7条第1項、第8条第1項)の規定により、ばい煙発生施設について、次のとおり届け出ます。

工場又は事業場の名称		※整 理 番 号	
工場又は事業場の所在地		※受理年月日	年 月 日
ばい煙発生施設の種類		※施 設 番 号	
ばい煙発生施設の構造	別紙1のとおり。	※審 査 結 果	
ばい煙発生施設の使用の方法	別紙2のとおり。	※備 考	
ばい煙の処理の方法	別紙3のとおり。		

- 備考 1 ばい煙発生施設の種類の欄には、大気汚染防止法施行令別表第1に掲げる項番号及び名称を記載すること。
- 2 ※印の欄には、記載しないこと。
- 3 変更届出の場合には、変更のある部分について、変更前及び変更後の内容を対照させること。
- 4 届出書及び別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本産業規格A4とすること。

別紙1

ばい煙発生施設の構造

工場又は事業場における施設番号			
名称及び型式			
設置年月日		年 月 日	年 月 日
着手予定年月日		年 月 日	年 月 日
使用開始予定年月日		年 月 日	年 月 日
規模	伝熱面積(m^2)		
	燃料の燃焼能力(重油換算 l/h)		
	原料の処理能力(t/h)		
	火格子面積又は羽口面断面積(m^2)		
	変圧器の定格容量(KVA)		
	触媒に付着する炭素の燃焼能力(kg/h)		
	焼却能力(kg/h)		
	乾燥施設の容量(m^3)		
	電流量(KA)		
ポンプの動力(KW)			
合成・漂白・濃縮能力(kg/h)			

- 備考 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。
- 2 規模の欄には、大気汚染防止法施行令別表第1の中欄に掲げる施設の当該下欄に規定する項目について記載すること。
- 3 ばい煙発生施設の構造概要図を添付すること。概要図は、主要寸法を記入し、日本産業規格A4の大きさに縮小したもの又は既存図面等を用いること。

別紙2

ばい煙発生施設の使用の方法

工 場 又 は 事 業 場 に お け る 施 設 番 号							
使用状況	1 日 の 使 用 時 間 及 び 月 使 用 日 数 等	時～ 時 時間／回 回／日 日／月			時～ 時 時間／回 回／日 日／月		
	季 節 変 動						
原 材 料 (ばい煙の 発生に影響 のあるもの に限る。)	種 類						
	使 用 割 合						
	原 材 料 中 の 成 分 割 合 (%)	いおう分 カドミウム分	鉛分 弗素分		いおう分 カドミウム分	鉛分 弗素分	
	1 日 の 使 用 量						
燃料又は 電 力	種 類						
	燃 料 中 の 成 分 割 合 (%)	灰 分	いおう分	窒 素 分	灰 分	いおう分	窒 素 分
	発 熱 量						
	通 常 の 使 用 量						
	混 焼 割 合						
排 出 ガ ス 量 (Nm ³ /h)		湿 り	最大	通常	最大	通常	
		乾 き	最大	通常	最大	通常	
排 出 ガ ス 温 度 (℃)							
排 出 ガ ス 中 の 酸 素 濃 度 (%)							
ばい煙の 濃 度	ば い じ ん (g/Nm ³)	最大	通常		最大	通常	
	い お う 酸 化 物 (容量比ppm)	最大	通常		最大	通常	
	カドミウム及びその化合物 (mg/Nm ³)	最大	通常		最大	通常	
	塩 素 (mg/Nm ³)	最大	通常		最大	通常	
	塩 化 水 素 (mg/Nm ³)	最大	通常		最大	通常	
	弗素、弗化水素及び弗化珪素 (mg/Nm ³)	最大	通常		最大	通常	
	鉛及びその化合物 (mg/Nm ³)	最大	通常		最大	通常	
	窒 素 酸 化 物 (容 量 比 p p m)	最大	通常		最大	通常	
ばい煙量	い お う 酸 化 物 (Nm ³ /h)	最大	通常		最大	通常	
参考事項							

- 備考 1 原材料中の成分割合(%)の欄及び燃料中の成分割合(%)の欄の記載にあたっては、重量比%又は容量比%の別を明らかにすること。
- 2 ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。
- 3 ばい煙の濃度は、ばい煙処理施設がある場合は、処理後の濃度とすること。
- 4 参考事項の欄には、ばい煙の排出状況に著しい変動のある施設についての一工程中の排出量の変動の状況、窒素酸化物の発生抑制のために採っている方法等を記載するほか、ガスタービン、ディーゼル機関、ガス機関又はガソリン機関については、常用又は非常用(専ら非常時において用いられるものをいう。)の別を明らかにすること。

ばい煙の処理の方法

ばい煙処理施設の工場又は事業場における施設番号							
処理に係るばい煙発生施設の工場又は事業場における施設番号							
ばい煙処理施設の種類、名称及び型式							
設 置 年 月 日			年 月 日		年 月 日		
着 手 予 定 年 月 日			年 月 日		年 月 日		
使 用 開 始 予 定 年 月 日			年 月 日		年 月 日		
処 理 能 力	排出ガス量 (Nm ³ /h)	最 大					
		通 常					
	排出ガス温度 (℃)	処 理 前					
		処 理 後					
	ばい煙の濃度	ばいじん (g/Nm ³)	処 理 前				
			処 理 後				
		いおう酸化物(容量比ppm)	処 理 前				
			処 理 後				
		カドミウム及びその化合物 (mg/Nm ³)	処 理 前				
			処 理 後				
		塩 素 (mg/Nm ³)	処 理 前				
			処 理 後				
		塩 化 水 素 (mg/Nm ³)	処 理 前				
			処 理 後				
		弗素、弗化水素及び弗化珪素 (mg/Nm ³)	処 理 前				
			処 理 後				
	鉛及びその化合物 (mg/Nm ³)	処 理 前					
		処 理 後					
	窒素酸化物(容量比ppm)	処 理 前					
		処 理 後					
	ばい煙量	いおう酸化物 (Nm ³ /h)	最 大	処 理 前			
				処 理 後			
			通 常	処 理 前			
				処 理 後			
捕集効率 (%)	ば い じ ん						
	い お う 酸 化 物						
	カ ド ミ ウ ム 及 び そ の 化 合 物						
	塩 素						
	塩 化 水 素						
	弗 素 、 弗 化 水 素 及 び 弗 化 珪 素						
	鉛 及 び そ の 化 合 物						
	窒 素 酸 化 物						
使 用 状 況	1日の使用時間及び月使用日数等		時～時 時間/回 回/日 日/月		時～時 時間/回 回/日 日/月		
	季 節 変 動						
排 出 口 の 実 高 さ H _o (m)							
補 正 され た 排 出 口 の 高 さ H _e (m)							
排 出 速 度 (m/s)							

備考 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。

2 ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。

3 補正された排出口の高さH_eは、大気汚染防止法施行規則第3条第2項の算式により算定すること。

4 ばい煙処理施設の構造図とその主要寸法を記入した概要図を添附すること。

(様式)

参 考 事 項

(ばい煙発生施設、一般粉じん発生施設及び特定粉じん発生施設の設置、使用、変更届出に係る参考事項)

事業所の概要	業種	農業、林業、漁業、鉱業、建設業、卸売、小売業、金融保険業、不動産業、運輸通信業、電気・ガス・水道・熱供給業、サービス業、公務、製造業（該当するものに○印）					
	製造業の場合	製造業		主要製品			
	担当部署名			電話番号	平日 夜間		
	事業所の配置年月	年月	事業所の敷地面積	m ³	用途地域	工専、工業、準工、商業、住居、無	
	操業状況	昼夜連続、昼間（時～時） その他（）		常時使用する従業員数			
	公害防止管理者（特定工場）	該当しない 該当する〔大気第1種、2種、3種、4種、一般粉じん、特定粉じん〕					
今回届出施設に係る参考事項	① ばい煙の発生状況、施設の使用 방법에著しい変動のある施設の変動状況 ② 燃料を混焼させる施設であって、混焼割合に著しい変動のある施設の変動状況 ③ その他ばい煙発生施設、一般粉じん発生施設、特定粉じん発生施設またはそれらの処理施設についての特記事項						
	④ばい煙の測定	測定者(事業所・委託)		自動連続測定機で定時測定する場合。測定項目・測定機の型式。			
今回届出施設に係る届出書添付書類	ばい煙発生施設の添付書類	チェック ○ 印	一般粉じん発生施設の添付書類	チェック ○ 印	特定粉じん発生施設の添付書類	チェック ○ 印	
	① ばい煙の排出基準計算書 ② 原料・燃料の性状分析表 ③ ばい煙の排出系統図 ④ ばい煙の発生及び処理に係る操業系統の概要図（工場の場合のみ） ⑤ ばい煙発生施設の構造概要図 ⑥ ばい煙の排出口の構造概要図 ⑦ ばい煙の測定口の構造概要図 ⑧ ばい煙の測定口の位置を示した図面 ⑨ 事業所の配置図 ⑩ 事業所への案内図 ⑪ 変更の理由及び変更の内容（変更届の場合のみ） ⑫ その他添付書類（）		① 一般粉じん発生及び処理に係る操業系統の概要図 ② 一般粉じん発生施設の構造概要図 ③ 一般粉じん処理施設又は防止施設の構造概要図 ④ 事業所の配置図 ⑤ 事業所への案内図 ⑥ 変更の理由及び変更の内容（変更届の場合のみ） ⑦ その他添付書類（）		① 特定粉じん発生及び処理に係る操業系統の概要図 ② 特定粉じん発生施設、処理施設、防止施設の構造概要図 ③ 特定粉じん発生施設、処理施設、防止施設の位置を示した事業所の配置図 ④ 特定粉じん排出系統図 ⑤ 特定粉じん発生施設を設置する工場・事業所の周辺の状況図 ⑥ 特定粉じんの濃度の測定場所及び当該場所を選定した理由書 ⑦ 事業所への案内図 ⑧ その他添付書類（）		

(様式)

排 出 基 準 計 算 書

1. 硫黄酸化物

(施設番号)

届 出 値 及 び 計 算 値	燃料・原料の使用量（最大）		ℓ /h、 kg/h、 Nm ³ /h		
	燃料・原料の比重				
	燃料・原料の硫黄分			%	
	硫黄酸化物の排出量（最大）	q'		Nm ³ /h	
	排出ガス量（湿りガス量・最大）	Qow		Nm ³ /h	
	排出ガス温度	t		℃	
	排出口（煙突）の実高さ	Ho		m	
	排出口（煙突）の頂口径（直径） 又は□形寸法、不等形の場合は面積	D A		m m ²	
	排出速度	V		m/s	
	有効煙突高さ	He		m	
	排 出 基 準	許容排出量 $q = K \times 10^{-3} \times He^2 = \square \times 10^{-3} \times \square^2 = \square \text{ Nm}^3/\text{h}$			
基準の適否	許容排出量 $q = \square \text{ Nm}^3/\text{h} \geq \text{届出排出量 } q' = \square \text{ Nm}^3/\text{h}$			適・否	

2. ばいじん

届 出 値	ばいじん濃度（最大）	Cs	g/Nm ³	
	排出ガス中の酸素濃度	Os	%	
排 出 基 準	ばいじん濃度	C	g/Nm ³	
	標準酸素濃度	On	%	
補 正 値	標準酸素濃度補正式 届出ばいじん濃度の補正值 $C' = \frac{21-0n}{21-0s} \times Cs = \square \text{ g/Nm}^3$			
基準の適否	排出基準 $C = \square \text{ g/Nm}^3 \geq \text{届出ばいじん濃度の補正值 } C' = \square \text{ g/Nm}^3$			適・否

3. 窒素酸化物

届 出 値	窒素酸化物濃度（最大）	Cs	ppm	
	排出ガス中の酸素濃度	Os	%	
排 出 基 準	窒素酸化物濃度	C	ppm	
	標準酸素濃度	On	%	
補 正 値	標準酸素濃度補正式 届出窒素酸化物濃度の補正值 $C' = \frac{21-0n}{21-0s} \times Cs = \square \text{ ppm}$			
基準の適否	排出基準 $C = \square \text{ ppm} \geq \text{届出ばいじん濃度の補正值 } C' = \square \text{ ppm}$			適・否

4. 有害物質

届 出 値	[] 濃度（最大）	C'	mg/Nm ³	
排 出 基 準	[] 濃度	C	mg/Nm ³	
補 正 値	標準酸素濃度補正式（廃棄物焼却炉のみ）			C'
基準の適否	排出基準 $C = \square \text{ mg/Nm}^3 \geq \text{届出値又は補正值 } C' = \square \text{ mg/Nm}^3$			適・否

(1) 硫黄酸化物の排出量の計算書

q_v (Nm³/h) = 燃料使用量 (ℓ /h) × 比重 × 硫黄分 (%) × 0.007 : 液体燃料の場合

--

(2) 排出ガス量 (湿り) の計算

--

(3) 有効煙突高の計算

①	15℃における排出ガス量 $Q = \frac{Q_{ow}}{3600} \cdot \frac{288}{273} = \frac{\boxed{} \times 288}{982800} = \boxed{} \text{ m}^3/\text{s}$
②	排出ガス温度 $T = 273 + t = 273 + \boxed{} = \boxed{} \text{ }^\circ \text{K}$
③	排出速度 $V = \frac{Q_{ow}}{A} \cdot \frac{T}{273} \cdot \frac{1}{3600} = \frac{\boxed{}}{\boxed{}} \cdot \frac{\boxed{}}{273} \cdot \frac{1}{3600} = \boxed{} \text{ m/s}$
④	$J = \frac{1}{\sqrt{QV}} (1460 - 296 \cdot \frac{V}{T - 288}) + 1$ $\frac{1}{\sqrt{\boxed{} \times \boxed{}}} \cdot (1460 - 296 \cdot \frac{\boxed{}}{\boxed{} - 288}) + 1 = \boxed{}$
⑤	温度により上昇する高さ $H_t = 2.01 \times 10^{-3} Q \cdot (T - 288) \times \left(2.30 \log J + \frac{1}{J} - 1 \right)$ $= 2.01 \times 10^{-3} \times \boxed{} \cdot (\boxed{} - 288) \cdot \left(2.30 \log \boxed{} - \frac{1}{\boxed{}} - 1 \right) = \boxed{} \text{ m}$
⑥	運動量により上昇する高さ $H_m = \frac{0.795 \sqrt{QV}}{1 + \frac{2.58}{V}} = \frac{0.795 \sqrt{\boxed{} \boxed{}}}{1 + \frac{2.58}{\boxed{}}} = \boxed{} \text{ m}$
⑦	有効煙突高 $H_e = H_o + 0.65 \cdot (H_t + H_m)$ $= \boxed{} + 0.65 \cdot (\boxed{} + \boxed{}) = \boxed{} \text{ m}$